



- ふくい“的”な“適”応で暮らしをもっと豊かに -

FUKUTEKI



元気な森をつくる運動（南越前町）



花粉の増加に備える

気候変動により、花粉の飛散時期が変化し、花粉症被害が増大する可能性があります

将来の花粉飛散傾向を知り、花粉症リスクに適応しよう

温暖化で花粉飛散量が増える？

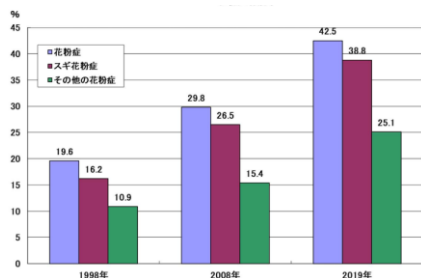
地球温暖化に伴う気候変動は、花粉の飛散時期や飛散量にも影響を与え、花粉症による健康被害を増大させる可能性があります。花粉症は、体内に侵入した花粉に対して身体が起こす免疫反応であり、日本における有病率は年々上昇傾向にあります。2019年度時点では、国民の42.5%が花粉症と推計されており、特にスギ花粉による鼻水などのアレルギー性鼻炎には多くの人が悩まされています。スギ花粉の飛散は、2～4月頃が中心ですが、温暖化により飛散開始が早まり、飛散量も多くなると予想されています。福井県のスギ花粉飛散量は、年によってばらつきがありますが、近年、飛散量が多くなっています。将来、花粉飛散量が増えた時に備え、花粉症リスクの増大に適応していく必要があります。

花粉症への適応

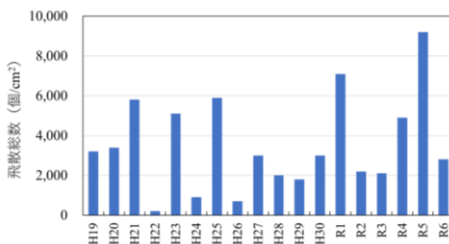
花粉症による健康被害を予防・軽減するためには、花粉の飛散時期や特徴を知り、いかに花粉を避けるかが重要となります。「福井県花粉情報」では、福井県内のスギ、ヒノキ花粉の飛散開始日を公開しており、早期化するスギ花粉の飛散時期の把握が可能です。早めに飛散時期を把握し、外出時に花粉症の症状軽減に有効であるメガネ・マスクの着用や花粉付着率が比較的低い素材（化学繊維、絹、綿）の衣類を着用することが、花粉症の予防・軽減に有効な対策となります。花粉症対策に関する詳しい情報は、環境省「[花粉症環境保健マニュアル](#)」に記載されています。

福井県花粉情報

福井県衛生環境研究センターでは、スギ花粉とヒノキ花粉の飛散時期（1月下旬から5月上旬）に、花粉飛散量測定を実施しています。測定は一日毎に行われており、飛散の状況は「[福井県花粉情報](#)」で確認することができます。現在の飛散ランクや過去の飛散開始時期が掲載されており、外出時の花粉対策に有用な情報を得ることができます。



花粉症有病率（出典：環境省 花粉症環境保健マニュアル）



福井県におけるスギ花粉飛散量

<合計値(スギ+ヒノキ)と飛散ランク>

令和7年	福井市	飛散ランク	永平寺町	飛散ランク	勝山市	飛散ランク
2月25日	0.0	★	0.0	★	0.0	★
2月26日	1.5	★	0.0	★	0.0	★
2月27日	0.0	★	0.0	★	0.0	★
2月28日	5.2	★	0.0	★	0.0	★
3月1日	19.4	★★	1.0	★	0.0	★
3月2日	0.0	★	0.0	★	0.0	★
3月3日	21.0	★★	3.0	★	0.0	★
3月4日	0.0	★	0.0	★	0.0	★
3月5日	6.5	★	0.0	★		
3月6日	3.4	★				

飛散ランク

★.....少ない(1cm³あたり10個未満)

★★.....やや多い(1cm³あたり10個以上30個未満)

★★★.....多い(1cm³あたり30個以上50個未満)

★★★★.....非常に多い(1cm³あたり50個以上100個未満)

★★★★★.....極めて多い(1cm³あたり100個以上)



取組紹介: 福井県総合グリーンセンター

花粉を飛散させない県産スギで 気候変動に伴う花粉症リスクを軽減

福井県総合グリーンセンターでは、花粉を飛散させない県産無花粉スギを開発し、
県内スギの伐採・植替えを推進することで、花粉症リスクの軽減に取り組んでいます。

県産無花粉スギの開発・増産

無花粉スギの特徴は、雄花は着けますが、花粉を全く出さないことです。

県総合グリーンセンターでは、2006年から花粉を飛散しない無花粉スギの研究に取り組み、2018年に福井県産の無花粉スギを開発しました。この県産無花粉スギは、まっすぐ太く成長し形質が良い県産スギと無花粉遺伝子を持つ富山県産スギを人工交配して作られており、両者の特徴を持つおよそ900本の雑種から選抜されました。

現在、当センターでは県産無花粉スギの増産に取り組んでおり、県内の苗木生産者へ県産無花粉スギの種子を供給し、苗木の生産が始まっています。

本県の人工林の9割がスギとなっており、このうち利用期を迎えた樹齢50年以上のスギは7割を占めています。伐採後に県産無花粉スギをはじめとした花粉の少ない品種の県産スギを植栽することにより、花粉症リスクの軽減に繋がるものと期待されます。



雄花の断面

※ 無花粉スギの雄花の中には花粉が全く見られません
(出典：森林総合研究所林木育種センター「花粉症対策品種の開発」)



県産無花粉スギの植栽

花粉の少ない品種のスギの植栽実証試験

県総合グリーンセンターでは、無花粉スギの開発の他にも、2024年から花粉の少ない品種（特定苗木）の植栽実証試験を進めています。この特定苗木は、従来の一般的な品種と比較して、花粉の飛散量が半分以下と少なく、成長速度も1.5倍早く、材質・通直性に優れていることが特徴です。植栽実証試験は、森林総合研究所林木育種センター関西育種場との共同研究により、福井市市ノ瀬町の山林などで行っており、今後30年にわたって、本県に適応した品種の選抜や植栽の密度の違いによる成長特性などを調べていきます。

初期成長が早く保育コストの縮減が期待されるため、普及が進むことで、将来の気候変動に伴う花粉症リスクの軽減と林業の活性化の両方が期待されています。



特定苗木の植栽実証試験地（福井市市ノ瀬町）



植栽された特定苗木の試験木



バイオ炭で温室効果ガスを削減

温室効果ガスの削減に有効な対策として、バイオ炭が注目されています。バイオ炭は、木や竹、もみ殻、家畜の糞などを炭化させたもので、農地などの土壌改良材として利用されています。バイオ炭は、ほとんどが植物由来の炭素で構成されているため、農地に埋めることで植物が大気から吸収した二酸化炭素を貯留することができ、温室効果ガスの削減につながるかと期待されています。

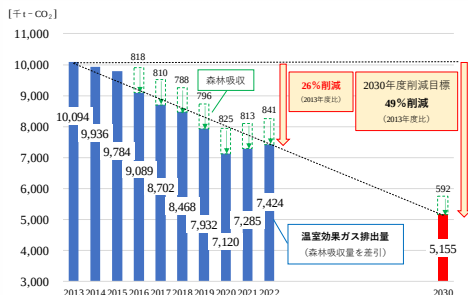
福井県では、地域未利用バイオマスを利用したバイオ炭製造技術の研究を行っており、有効活用や普及に向けた取組みを進めています。



竹のバイオ炭

温室効果ガス排出量（2022年度速報値）

県では2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で49%削減する目標を掲げ、省エネや再生可能エネルギーの導入拡大を推進しています。最新の2022年度の温室効果ガス排出量（速報値）は、742万トン（2013年度比26%削減）となっており、概ね順調に推移していますが、コロナ禍からの回復の影響もあり前年度比で微増となりました。家庭と産業において、電気使用量が増加したことが主な要因です。目標達成には、引き続き、エネルギー源の転換と省エネを進め、排出量を削減させる必要があります。



福井県の温室効果ガス排出量

参考・出典

環境省花粉症環境保健マニュアル
福井県花粉情報
福井県における温室効果ガス排出量
気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）

<https://www.env.go.jp/content/900406385.pdf>
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/eiken/kafun-info/index.html>
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankyoku/ghg23.html>
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/>

ふくエコアプリ

をダウンロードしていますぐデコ活を始めよう！



Android



AppStore

福井県気候変動適応センター
福井県庁10階 環境政策課

〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号
TEL 0776-20-0301 メール kankyoku@pref.fukui.lg.jp